

協会だより

# ひろば\*

2019  
AUGUST  
vol.34

レポート

## 第22回 作品展報告

施設の「ここにご注目!!」コーナー

## 理事長就任のご挨拶

公益社団法人群馬県老人保健施設協会 理事長 服部徳昭

この度、令和元年6月19日に開催された公益社団法人群馬県老人保健施設協会の定時総会にて13名の役員が選任されました。矢島祥吉理事長が退任され、新理事長に私、服部徳昭が就任しました。

全国老人保健施設協会が設立されて今年で30年になりますが、群馬県でもこの時代の転換期となつた30年間に、初代理事長の高玉真光先生、二代目理事長矢島祥吉先生が現在の盤石ともいえる老人保健施設協会を築いてこられました。

今回理事長を拝命し、少子高齢化と人口減少が同時に進む未知なる時代の舵取りの責任を負う立場になり、改めて身の引き締まる思いを強くいたしております。多くの皆様のご支援をいただきなければ前に進むことができません。

ご承知のとおり、地域包括ケアシステムの深化がもとめられ、最終目的は多世代共生の地域社会が多職種連携のもとに醸成されることです。そのためにも在宅支援や地域貢献といった新たな取り組みや医療・介護情報システムの展開にも参加していくことが肝要です。

群馬県には老人保健施設が84あります。一つ一つの施設がそれぞれの地域の皆さんにご理解いただき信頼していただくためにも、協会一丸となって進んでまいります。老人保健施設が医療・介護・予防・生活・地域に貢献できる大規模多機能施設としての本来の機能を益々発揮できますよう、皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 西毛 ブロック会場

### 来場者感想

●皆様、一生懸命作られて発表ができる場所があり、張合いにつながるのではないかでしょうか。「ご自由にお持ち帰りください」が、お年寄りの方々の温かさを感じるようです。(70歳代女性)

●どの作品も一つひとつ丁寧に作られていて、とても感激しました。私には自閉症の障害をもった年子の子供が2人おりますが、子供たちを連れてまた見にきたいと思います。心からとても和みました。ありがとうございます。(30歳代女性)

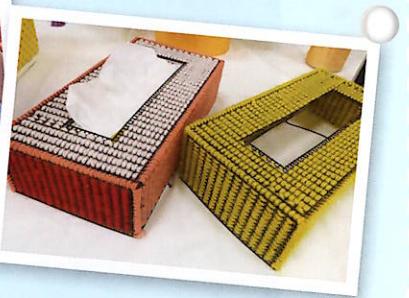
●個性的でとても素敵でした。このような展示会があることを初めて知りました。今後も足を運んでみたいと思います。(20歳代女性)

●介護相談会が良かったです。参考になりました。(40歳代男性)



### 係

●作品をきっかけに医療や介護に関心をもつてくださる方が増えると良いと思います。



## 東毛 ブロック会場



### 来場者感想

●毎年来ています。来年も見に来たい。来年の参考にしたい。  
●説明してくれる人もいて、とても良かったです。初めて来たのですが、また来てみたいです。  
●おみやげのところにメッセージを書く紙があると良い。  
●「ばたんなんべ」がお気に入り。  
●「しょうのなまえがいいかけんで賞」

### 係

●たくさんの方に来ていただき、帰りの皆様の笑顔がとても最高でした。



# 第22回 作品展

### 展示会場 開催期間

#### 北・中毛

群馬県庁1階 県民ホール北側  
2019年5月22日(水)～5月24日(金)

#### 西毛

イオンモール高崎 イオンホール  
2019年5月20日(月)～5月22日(水)

#### 東毛

イオンモール太田 イオンホール  
2019年5月22日(水)～5月24日(金)

### [群馬県老人保健施設協会作品展のご報告]

作品展実行委員長 水間 春夫

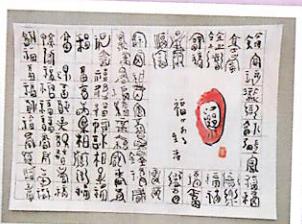
令和となり最初の老健作品展が5月下旬に西毛、中・北毛、東毛の三つのブロックに分かれて開催されました。

今年も個人での力作や、皆さんで協力して取り組んだ大作が盛りだくさんみられました。介護を要している方、取り組み方次第で素晴らしい結果を出せることが何よりも励みと自信になることだと思います。

各施設での様々な取り組みを参考にしていただき、自施設でのレクリエーションなどへの新たな視点につながることになれば幸いです。

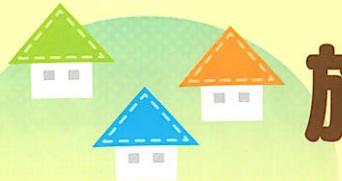
今回も実行委員の方々や事務局、各施設の皆様のご協力をいただき心より感謝申し上げます。これからも作品展を通じて利用者の方の楽しみや、遣り甲斐がもたらされることを祈念いたします。

## 北・中毛 ブロック会場



### 係

●老健を退所された利用者様が在宅サービスを利用し、見学に来てくれました。久々の再会で、お互いに近況報告なども出来ました。



# 施設の「ここにご注目!!」コーナー

介護老人保健施設  
高砂荘

## リハビリ効果は笑顔が一番

支援相談員 霜田 久美子

入所者の皆様とスタッフが一体となり共に協力しながら楽しみや生きがいを求めていけるように、日々の生活に工夫を凝らし毎日奮闘しております。

最近の主な行事として、正月は福笑い、春には花見、運動会、マグロの解体ショー、夏の縁日気分、敬老会、リクエストによる餃子作りなど、入所者を中心にして明るい笑い声の響く施設づくりに力を入れております。

今後も頭や体を使ったりと楽しみながらの生活リハビリを主とし、在宅復帰への支援を続けて行きたいと思っております。



介護老人保健施設  
大誠苑

## 「ずっと運転したい」を叶えるリハビリ

通所リハビリテーション「元気になあ～れ」

理学療法士 萩原 裕平

当苑は県内初の認知症専門棟を有する介護老人保健施設として、認知症ケアの推進に努めてまいりました。そのような中で、平成30年から通所リハビリにて高齢者の自動車運転を支援するための取り組みを始めました。

ご存知の通り、群馬県は運転免許取得率が全国1位であり、沼田市は山間地域にあるため農業で生活を営む方が多く、自動車の運転は生活に欠かせないものとなっています。一方、平成29年3月の道路交通法の改正に伴い、高齢者の免許更新の際に認知機能検査の結果に応じて、病院での受診が義務付けられました。これらの方々を支援するために開始したのが「ドライバーリハビリ」です。

「ドライバーリハビリ」では、高齢者やMCI(軽度認知障害)の方に対しての自動車運転に対する包括的支援を目的としています。これらの方々に、高次脳機能および身体機能の評価や訓練、ドライブシミュレーターを使用した運転能力評価や運転へのアドバイス、自主返納に向けた支援、さらに精神的サポートなどを行っています。

高齢者の自動車運転を取り巻く状況は、非常に厳しいものになってきています。「高齢者だから運転は危険」という画一的な考えをするのではなく、きちんと精査した上で、運転が継続できる方には安全に運転できるための支援を、運転が難しい方には返納のサポートやその後の生活を支援していく仕組みを拡充させていくべく日々取り組んでいます。



群馬中央病院附属  
介護老人保健施設

## 麺をよりおいしく提供！

管理栄養士 小川 直人

群中老健は病院の附属施設ですので、病院の栄養課がおいしい食事を提供しています。調理員さんたちがおいしい食事を提供するためにさまざまな工夫をしています。沢山あるメニューのなかで利用者の皆様に人気なのが「麺類」のメニューです。

群中老健では週に1回程度麺類を提供しており、味噌ラーメンやチャンポン麺、カレーうどんなどのメニューがあります。しかし通常の提供方法ではどうしても麺のがびてしまう事が多く、利用者からも不満の声をいただいていました。そこで栄養課やリハビリスタッフに相談して、提供の時間を調整し、麺の日はリハビリを早く終わらせてもらうなど、他職種の方々にも協力をしてもらい、作ったものをすぐに提供できるようにしました。

その結果、利用者からも「味がおいしくなったけど作り方を変えたの?」「とてもおいしかった。」「次の麺メニューはいつですか?」などの言葉や感謝の手紙を頂きました。

また、減塩のためスープは飲まないように伝えるなど、簡単な栄養指導に繋げていき、利用者の「食」に関する意識の向上を図るようにしています。これからも病院を含め施設に関わる全てのスタッフと共に、サービスの向上に努めたいと思います。



介護老人保健施設  
ことりの園

## いくつになってもドキドキ・ワクワク！

介護支援専門員 岸 直人

老健ことりの園は、特定医療法人博人会第一病院内に併設され、建物の中の5階6階にある、開設16年目の施設です。窓からは上毛三山の絶景を見渡すことができ、夏は花火を楽しむことができます。

当施設のこだわりは「いくつになってもドキドキ・ワクワク」がコンセプトの、様々なレクリエーションです。

チョコレートフォンデュ体験。お花見弁当にハンバーガーとフライドポテト。近年話題のハーバリウム作り。など、初めて体験する入所者様が多く、目がキラキラ、笑顔がはじけていました。今は、季節にぴったり、ペットボトルを使った風鈴作りをしています。

時に企画倒れとなることもありますが、そこは職員の話術でカバーです。

これからも、安全第一。レク委員を中心に新しいことに挑戦していきたいと思います。

目指すのは、笑顔と笑い声が溢れる施設です。



# これ知ってました？

## … 介護予防 その2 …

### 転倒予防について

#### <高齢者の転倒予防はなぜ重要？>

現在、日本では65歳以上の高齢者が増加しており、総人口に占める高齢者の割合は28.1%となっています。年間20%の高齢者が転倒していると言われており、その中の5～10%に骨折が発生しています。転倒による骨折は、寝たきりの原因にもなり、筋力低下によっての転倒リスクは4倍にもなると言われています。早いうちから転倒予防を行っていくことで、健康寿命を延ばしていきましょう！

#### <骨折しやすい部位>

高齢者が転倒することにより、骨折しやすい部位としては以下のものがあります。



転倒によって、50～70%に骨折を含む怪我が発生しています。生命や生活の質の低下に大きな影響を及ぼす骨折は1～3%に発生しています。

骨折をすることで、安静期間中に筋力が低下し、再度転倒する可能性が高くなってしまいます。

#### <運動の注意点>

①薬剤を使用していたり、関節痛がある方は主治医に相談をし、運動量を決めて下さい。

また、人工関節の手術をされている方は、脱臼姿勢などに注意をして下さい。

②無理のない範囲で回数を決めて行って下さい。

### 運動をしてみましょう！

#### <準備運動>

息を止めないようにゆっくりと10秒数えましょう。

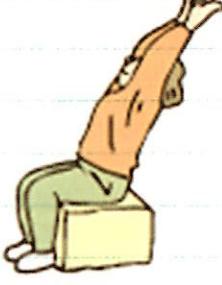
①わき伸ばし



②体ねじり

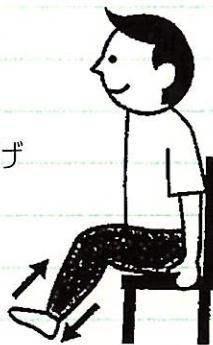


③背中伸ばし



①つま先上げ

踵をつけたまま  
つま先の上げ下げ



②かかと上げ

つま先をつけて  
踵の上げ下ろし



③足踏み

大きく  
ゆっくり足踏み



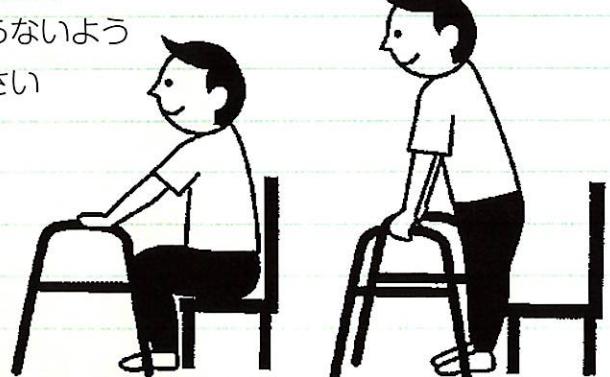
④ひざのばし

太ももは  
椅子につけたまま  
ゆっくり伸ばす



⑤立ち座り練習

ドスンとならないよう  
注意して下さい



⑥バランス練習

片足立ちを  
10×2回ずつ



★運動は無理のない範囲で行って下さい。

筋力増加し、健康寿命を伸ばしていきましょう！

## 介護ロボット開発等加速化事業

はじめに

介護人材不足は深刻さを増すばかりです。このままでは、介護が必要な状態になつても介護が受けられないなんていう時代が来てしまふかもしません。そんなことになつたら大変です。

国は、介護人材不足に対応するため、更なる処遇改善を行うほか、アクティビティニア（中高齢者）や子育てを終えた女性などに介護分野への新規参入を促したり、外国人介護人材の受け入れ環境を整備してその活躍を推進したりといつたさまざまな対策を始めています。そんな対策のひとつとして、大きな期待を持つて取組が加速化されているのが「介護ロボット（の活用推進）」です。介護には人の手が不可欠ですが、わが国では人自体が減る一方ですからロボットの手も借りなければということです。

### 「介護ロボット」とは？

ロボットと聞くと、われわれはドラえもんやガングダムのようなロボットをイメージしがちです。なので、介護ロボットも、ロボットスーン（介護者の体に装着して使う装着型のパワーアシスト機器）や、動物等の姿形をしたコミュニケーションロボットのイメージで認識されている傾向があります。

ロボットとは、情報を感じ取（センサー系）・判断し（知能制御系）、動作する（駆動系）という3つの要素技術を有する知能化した機器やシステムのことといいます。そして、これらの技術が応用され、利用者の「自立支援」や介護者の「負担軽減」に役立つ介護機器のことを介護ロボットといいます。

ですから、見守りセンサーと外部通信機能を備えた機器や、転倒検知センサーと外部通信機能を備えた機器なども、いわゆるロボットの姿形はいなくとも介護ロボットです。他にも排泄を予測し的確なタイミングでトイレへ誘導する機器や、自動的に排泄物を処理する機器、両手両腕が不自由であっても食べ物を口まで運んでくれる機器、介護業務に伴う大変多くの情報を収集・蓄積し、それを基に高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする介護業務支援機器などもじつは介護ロボットなのです。むしろ、これらのような介護ロボットの

開発普及こそが、介護人材不足の今時代には期待されているのです。

### 「ニーズ」と「シーズ」のマッチング

「ニーズ」とは、「利用する側が求めている必要性」のことです。対して「シーズ」とは、「企業が持つ技術やノウハウ、アイデア等」のことです。「seeds（シーズ）」はそもそも「種」という意味です。つまり、シーズ（技術等）はニーズという土に蒔いて初めて芽を出し、実を成らせることができる（役に立つ）ということです。逆に言えば、どんなに素晴らしい技術もニーズに合わなければ役には立たないということです。

近年、ロボット技術の進歩は目覚ましく、それらを商品化した介護ロボットが続々と市場に登場してはいるものの使われていないという現実があります。肝心の介護の現場では、「使えるものがない」「高い」「必要ではない」といった評価で迎えられているからです。

そこで、国は国の事業として、開発前の着想段階から介護ロボットの方向性について開発企業と介護現場が協議し、介護現場のニーズを反映して介護ロボットを開発していくこととしました。これまでのシーズ優位であった介護ロボット開発のあり方を大きく転換するものです。

この、介護現場のニーズを明らかにし、それを満たすことができるシーズとマッチングさせることで、現場で役立つ介護ロボットを提案する役割を持つのが、全国に50協議会が設置されている「介護ロボットのニーズ・シズ連携協調協議会」です。

今後、真に現場で役立つ介護ロボットが普及すれば、介護人材不足を補うだけでなく、今よりさらに安全性の高い、より質の高い介護の提供にもつながるでしょう。しかし、どんな優れた介護ロボットもあくまで道具に過ぎないということ、肝心なのは、それを使う人間の心であることを開発するにも導入するにも忘れないようにいたします。

施設の「空床情報」等、協会HPへ掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.gunma-roken.jp/>



## あとがき

Y

T

H

まだ暑い日が続きますが、水分をこまめにとり、体調を崩さないようにがんばりましょう。  
熱中症になつてませんか？入浴でもなるのでお互い注意しましょう。  
還暦を迎ました。もう少し頑張ります。

## 協会・事務局コーナー

10月

12日(土) 第29回群馬県老人保健施設大会  
23日(水) 部会代表委員会

11月

8日(金) アセッサー講習集合研修  
13日(水) 通常理事会  
29日(金) 管理職等職員研修会

12月

7日(土) 栄養担当職員研修会  
11日(水) 支援相談員研修会  
19日(木) 「介護助手」養成事業成果報告会

1月

24日(金) 看護・介護職員研修基礎講座

2月

19日(水) 代表委員会  
26日(水) 臨時理事会

3月

18日(水) 臨時理事会  
18日(水) 臨時総会

## ■協会行事予定

介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会群馬県協議会委員長  
介護老人保健施設ミドルホーム富岡副施設長

新井 健五